

～ 別子校区地域ケアネットワーク推進協議会 に参加しました ～

新居浜市社会福祉協議会、及び、別子山分室の皆様、お世話になり、ありがとうございました。
(学生レポートより抜粋)



今回、地域探索で初めて別子山に行った。
交通の不便さと共に、同時に自然の豊かさも感じた。市街地に住む私たちから見ると、警察や消防、救急車の要請など、不便だが、会に参加しておられる皆さんは、和気あいあい、住民同士の暖かいつながりを感じた。
対象と向き合う際は、自分の固定観念ではなく、対象が考えていること、見ているものを理解しようと務めることが重要だと思った。
(1年生 女子/社会人)



別子山には、不便な生活の中にも、沢山の魅力が詰まっています。見守り推進委員という高齢者の安否確認をしている団体もあり、協力体制が整っている。
地域ケアネットワーク推進協議会を通して、住民と様々な人たちが一緒に、どうしたらもっと住みやすくなるかを考えていることもわかった。

最初は、別子山での生活は、嫌だと思ったけれど、住民の思いやつながりを知り、別子山で生活してみたくなった。これから高齢化が進んでいくと思うが、別子山の歴史を聴いて、受け継いでいきたいと思う。
(1年生 女子/新卒)



地域探索実習でわかったことは、様々な職種の人たちが連携して高齢者の生活を見守っていること。人が少ないからこそ、人と人との繋がりを大事にしていること。「生まれ変わっても、別子山に住みたい」という発言があったが、何故、利便性のよい市街地ではなく別子山なのかと疑問に思った。

まとめの発表をとおして、住み慣れた土地で、親の代から住んでいる「思い出」と「当たり前」に暮らすこと。その人らしい暮らしを支援することの大事さを理解できた。私の祖父は、しまなみ海道沿いの島の繁華街から離れた場所に暮らしている。今まで不便だとはか思っていなかったが、これから祖父の暮らしを見る角度が変わると思う。看護師らしい知識を深めて、多くの人を理解できるようになりたい。
(1年生 男子/新卒)



別子山の魅力は、水や空気が綺麗、春夏秋冬がハッキリしていて、人と人の繋がりが強いこと。でも反対に、山道は遠く、スーパーもなく、事件があった場合や、もしもの対応には時間がかかる等、マイナスなこともある。要介護で車椅子の人は、ギリギリ住めるが、寝たきりになると住むことは出来ない。

私は、住みたいとは思わなかったが、いいところをたくさん知って、関係人口になっていけたらいいなと思っている。
(1年生 女子/新卒)



今回の実習は、私の知らなかった世界を発見する楽しさを感じた実習だった。
人口減少が著しく、交通や医療においては不便であるが、そこで長く暮らしてきた高齢者が大半を占める地域だからこそ、土地を愛し、古くからの歴史を知っている人が多い。私たちができることは、別子の事を発信し、住んでいなくても、別子を思っている人を増やすこと。私たちも、その一員になることだと思う。
別子のパンフレットも紙から電子的なものに変えるだけで、少し状況は変わるのではないかと思った。
(1年生 女子/新卒)